

Life
Support
TEDAKO

QSK

令和3年 10月 No.229 発行部数 2,500部
NPO 法人ライフサポートてだこ 代表/友寄 利津子
〒901-2126 沖縄県浦添市宮城 3-13-12
Tel. 098-875-2557 Fax. 098-875-2666
E-mail: lstedako@yahoo.co.jp HP: <http://www.lstedako.com/>

ひだまり通信

祝 百歳！おめでとうございます！ 祝



デイサービスセンターえんでは開所以来、初の百歳を迎えられた幸子さんをみなでお祝いしました。職員の三線や余興もあり、楽しく温かい“百寿祝い”となりました。誰にでも優しくお話しが大好きな幸子さん。いつまでもお元気で、一緒にえんで楽しい時間を過ごしましょうね(^^♪

ていーだカフェ（認知症カフェ）
毎週火曜日、午前10時から
FM21、76.8でラジオ放送中！！
認知症に関する情報や全然関係ない情報を
どしどし、ジャンジャン発信します！

職員募集のお知らせ

あん、えんでは介護職を募集しています。勤務時間も相談に応じますのでお気軽にご連絡下さい。

短時間（朝のみ、夕方のみ）でも大丈夫です！

「想像を創造する」をモットーに夢を持って、楽しみながら新しい職場を一緒に作ってみませんか？

お問い合わせ：098-875-2557

担当 泉水

小規模多機能ホーム あん日記

Q.小規模多機能ホームの訪問とはどんなサービスですか？

小規模多機能ホームの訪問は、時間の制限や介護度によって回数が限られてしまう訪問介護（ホームヘルプ）とは違い、服薬のみ、安否確認のみなどの短時間の訪問や、ご本人・ご家族の要望（急用・急病など）に合わせて通所を訪問（訪問→通所）に変更することが可能です。また、訪問する際は「通い」で顔なじみの職員が対応でき伺いますので安心してご利用頂けます。

「通い」だけでは支えられないニーズにも、その方に必要な支援を検討し柔軟に対応していきますのでお気軽にお問い合わせください。（098-988-0733）担当：ノダ



Instagram



facebook



浦添市地域包括支援センターライフサポート

9月は、敬老の日、アルツハイマー月間など高齢者に関する行事が多くありました。

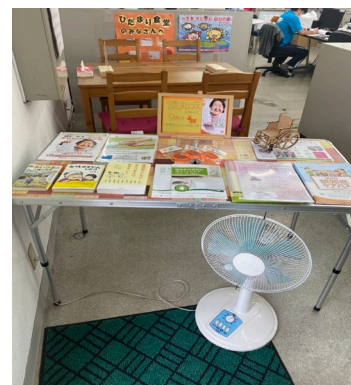
9月21日は、世界アルツハイマーデー

1994年「国際アルツハイマー病協会は、世界保健機関（WHO）と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、この日を中心に認知症の啓蒙を実施しています。また、9月を「世界アルツハイマー月間」と定め、様々な取り組みを行っています。わが国、日本でも公益社団法人「認知症の人と家族の会」がポスターやリーフレットを作成し、認知症への理解を呼びかけるなどの活動を行っています。

当包括支援センターでも認知症に関する普及・啓発、相談などをより集中的に実施しました。沖縄県では、65歳以上の高齢者のうち約4万人が認知症の診断を受けています。

事務所入り口にも、認知症の本やリーフレットなどをおいて、来所される方の目に留まるように設置しています。

10月いっぱい設置しているので、気になる方は、感染対策に気をつけておこしてください。

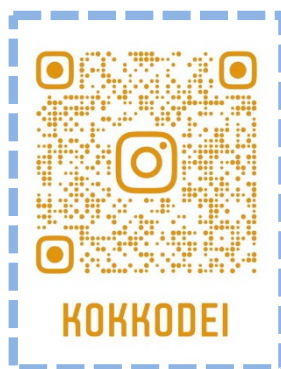


こっこだけのほ・な・し

今年の夏休みも楽しかったな～♪



カブトムシ～！
たくさん食べて
よ～



Instagram
始めました！
見てね^^



オレンジめーる

By ヘルパーステーションりん



運動会の
季節ですね♪

第4弾 移動支援とはどんなサービス？

単独で外出することが困難な障がい者（児）に、

外出中の介助・見守りなどを行うサービスです。

■社会生活上必要不可欠な外出

行政機関や金融機関への外出、生活必需品の買い物、冠婚葬祭への参加など

※生活必需品の買い物は、市内の利用を原則とします。

■余暇活動等参加のための外出

ウィンドーショッピング、レクリエーション、外食、散歩など

※カラオケ・ボーリング、スポーツ等でヘルパーと一緒に遊ぶことは出来ません。

■通所・特別支援学校への通学（市町村の独自サービス）

浦添市では、通所・通学することが困難な場合、訪問介護事業所が対応しています。

浦添市また他市町村で移動支援を利用するには、市役所にて手続きが必要になります。申請者から聞き取り情報をもとに、審査決定をいたします。審査の結果、利用時間をご要望と異なる場合がありますのでご了承ください。詳しくは、担当 ヨナハ ☎ 875-3557 までお問い合わせください。

次回、移動支援開始までの流れを紹介したいと思います♪



ニコニコ

2525

りっこの 七転八喜 (起)



海が好きな理由。

沖縄は十月でもまだ暑い日が続いています。青い空と海が身近にある幸せを今日も噛み締めています。釣り行きた〜い。ビーチパーティーしたい〜い。

私は小さい頃から海が身近にある生活をしてきました。

環境的にも自宅から近かったのですが、両親が海が好きだったこともあり。物心ついた頃からよく海に遊びに行っていました。泳ぎに行ったり(つかえるくらいですが・・・)竹の竿を持って父と3姉妹で釣りに行ったり。(餌はツナと小麦粉をこねたものでした。)母は貝やタコ取り名人で大潮の時には一人でも海に出かけていきます。私が中学生の頃ですが、母が庭で着替えをしているのでどうしてか聞くと、イヒヒとイタズラ子っぽく笑いながら、父に内緒で海に行くとのことでした。もちろん口止めをされましたが母の海好きは恐るべしです。父は週末にはよく釣りに出かけていました。サビキ(釣り用の仕掛け)は毎回手作りです。黙々と準備をしている父を思い出します。夫婦二人で夜にタコ取りに出かけ、朝になるとタコがウヨウヨいてびっくりすることもありました。妹はタコを茹でる母にタコが可哀想と泣いていたこともあり。私は母が取って来た貝を茹でて、殻からひとつひとつ取り出す作業がとても好きです。ティラジャー(コマ貝)や高瀬貝、サザエなどをよく食べていました。幼少期には、近くのカーミージャー(亀瀬)で本当に沢山の貝が取れました。一人で九個程のサザエを食べていたくらいです。成人して居酒屋でサザエの値段を見てびっくりしたのを覚えています。今は埋め立てなどで潮の流れが変わり、貝がいなくなったと寂しそうに話す母(八五才)ですが、それでも大潮の時期になると海に行きたがります。海に入ると誰よりも早く歩く姿には驚きま

す。父もよく魚を釣ってきたので、イマイユ(活魚)が食卓によく出ていました。今思えばかなり贅沢ですよ。そんな日常だったので、自然と海が好きになり、釣りをするようになっていきました。でもなぜかこんなに海が好きなのは、姉妹でも私だけです。釣りをするのも私だけ、潮が引いていると、海に入りたくというか入ってしまうのも私だけです。夏が好きな理由もそこにあるのかもしれませんが。確かに両親の海好きのDNAを受け継いでいます。

海にいと時間を忘れてしまいます。自然の風や波の音に身を任せる時間は何よりも至福の時間です。この環境にいられることに本当に感謝します。沖縄から出て他の地で数週間暮らしてみると当たり前にあった景色が特別なように思えて感謝の気持ちがいよいよ強くなりました。

離れた手放して気づく大切なことってきっと皆さんにも経験があると思います。離れた手放すタイミングは偶然ではなく、必然です。何かに気づくために必要で次のステージに進むためのチャンスなのかもしれません。そして当たり前感謝するための機会です。

今、全世界が今までは違う環境の中で、辛い思いをしているのも必然だとしたら、私たちは何に気づかなければいけないのでしょうか。不平、不満で日々を送るより、どんなチャンスを探るために何を創り、何をしなければいけないのかを考える方がワクワクしませんか?もちろん感謝も忘れずに!!

最新情報はライサポ
ホームページを
CHECK! ⇒⇒⇒



LINEは
こちら⇒⇒



小規模
多機能ホーム
あん ⇒⇒

YouTube



facebook

